

世界が進むチカラになる。



経済調査

グラフで見る関西経済 (2026年10月)

2026年10月13日

調査部 主任研究員

塚田裕昭

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

今月の景気判断～持ち直しの動きがみられる

【今月のポイント】

- 関西経済は、持ち直しの動きがみられる
- 7月の生産は4ヵ月ぶりに前月比マイナスとなったが、均してみると持ち直しの動きがみられる
- 8月の実質輸出は2ヵ月連続で前月比でプラスとなり、持ち直しの動きがみられる
- 日銀短観9月調査の業況判断DI(「良い」－「悪い」)は、製造業、非製造業ともに改善した。設備投資も前年度比増加が見込まれている
- 7月の賃金(大阪)は、名目でプラスが続いている。実質でも8ヵ月連続でプラスとなった

項目	現状
景気全般	持ち直しの動きがみられる
生産	持ち直しの動きがみられる
輸出	持ち直しの動きがみられる(↑)
設備投資	増加している
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	改善している
個人消費	持ち直している
住宅投資	持ち直しの動きがみられる(↑)
公共投資	例年を上回る水準となっている

注: () 内は前月からの変化の方向

輸出は「横ばい圏で推移している」から上方修正(↑)

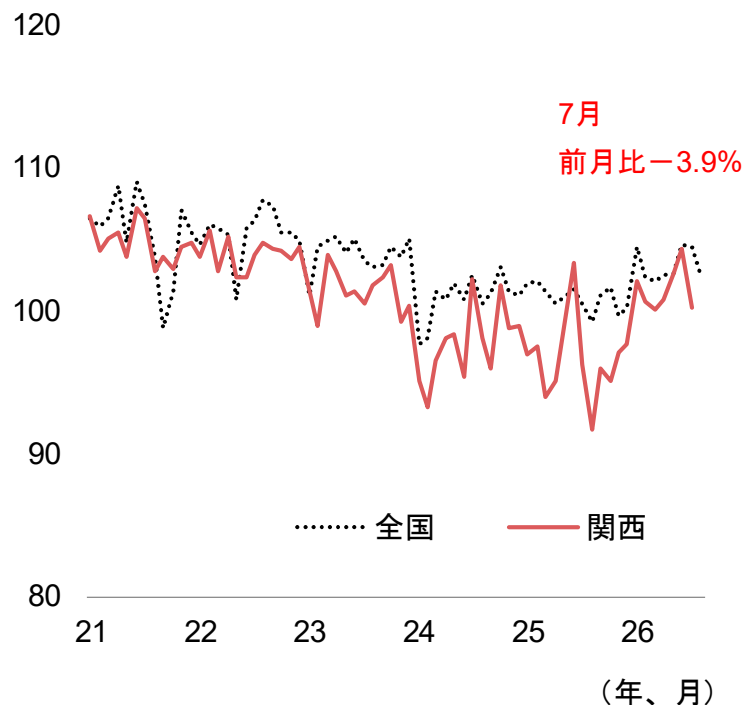
住宅投資は「横ばい圏で推移している」から上方修正(↑)

生産

7月の鉱工業生産(関西)は前月比-3.9%と4ヵ月ぶりにマイナスとなったが、均してみると持ち直しの動きがみられる。汎用・生産用・業務用機械が増加した一方、化学、電子部品・デバイスなどが減少した。先行きは、持ち直しを見込むが、米・イランの対立長期化、中国経済減速などから下振れるリスクがある。

鉱工業生産指数

(2020年=100)



(出所)経済産業省「鉱工業指数」

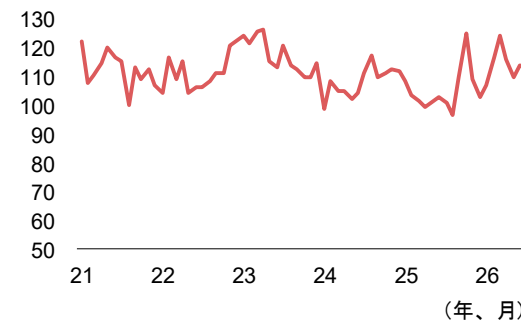
電子部品・デバイス

(2020年=100)



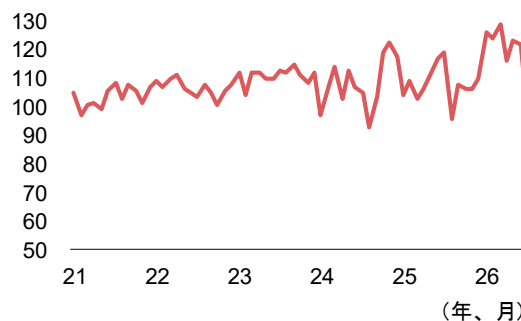
電気機械

(2020年=100)



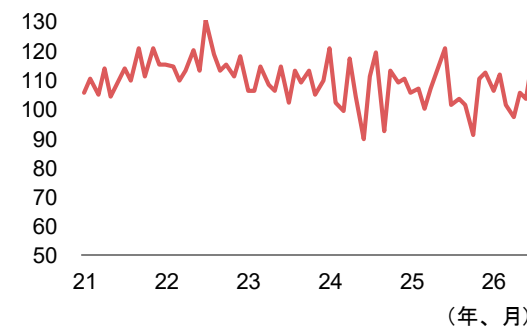
化学

(2020年=100)



汎用・生産用・業務用機械

(2020年=100)

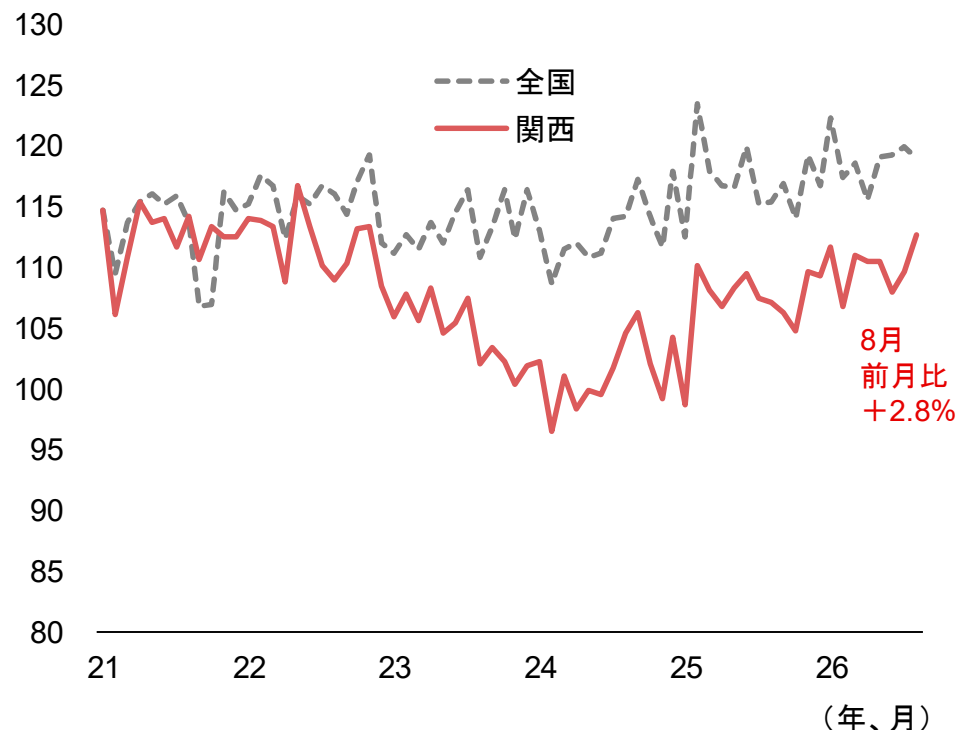


輸出

8月の実質輸出(季節調整値)は、前月比+2.8%の112.8と2ヵ月連続で上昇、持ち直しの動きがみられる。当社試算の8月の輸出数量(季節調整値)は2ヵ月連続で上昇した。先行きについては持ち直しを見込むが、イラン情勢の展開や中国経済の減速から下振れるリスクもある。

実質輸出指数(季節調整値)

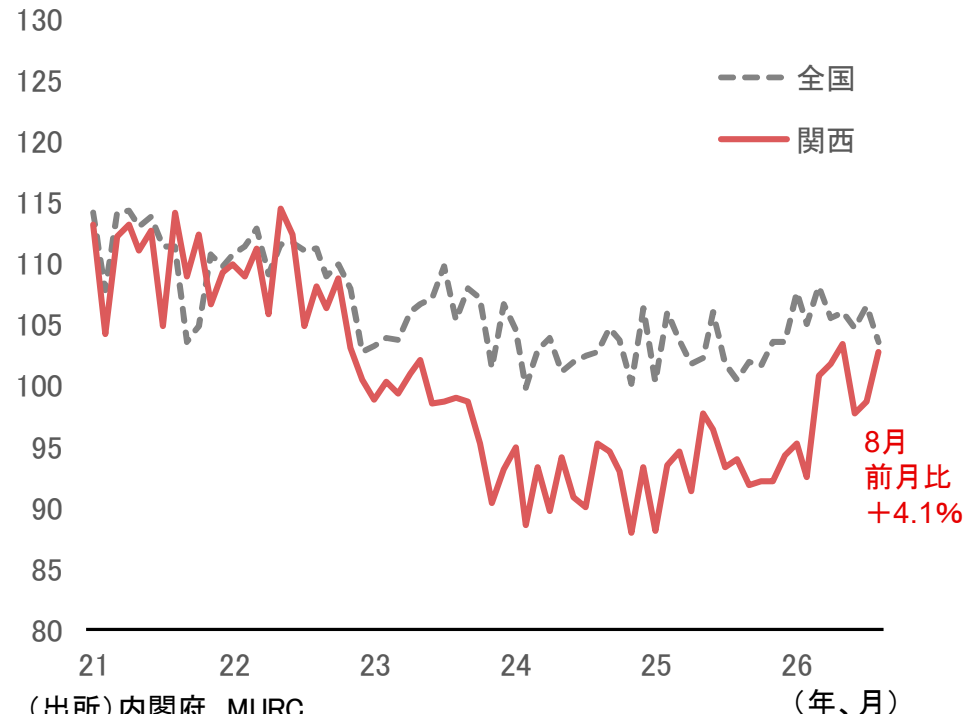
(2020年=100)



(出所) 日銀大阪支店「実質輸出入」

輸出数量指数(季節調整値)

(2020年=100)



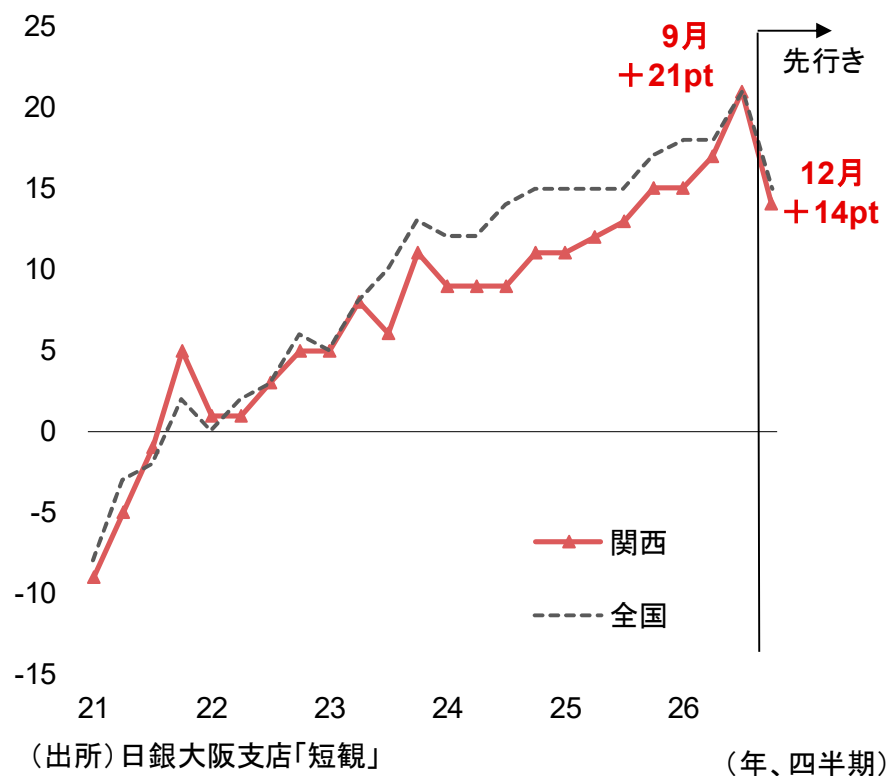
(出所) 内閣府、MURC

(注) 関西の数量指数はMURC試算。輸出金額(指数)を輸出価格指数(全国)で除したもの。

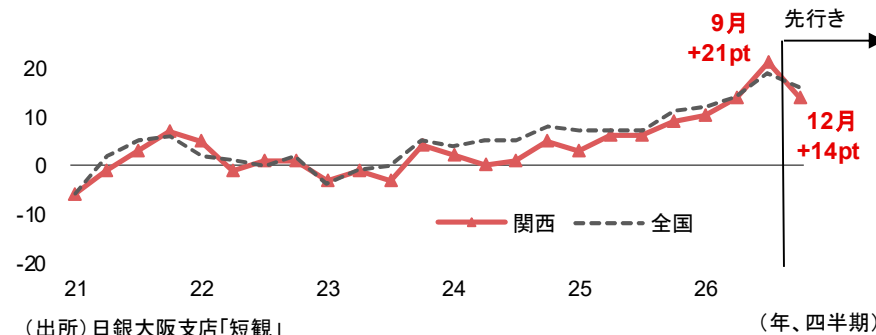
企業景況感(日銀短観)

日銀短観9月調査の業況判断DI(「良い」-「悪い」)は、全産業で+21ptと6月調査(+17pt)から改善。製造業、非製造業ともに改善した。業種別に見ると、製造業では化学、非鉄金属、はん用・生産用・業務用機械などが、非製造業は建設、物品賃貸、対個人サービスなどが改善している。先行き(12月)については、製造業、非製造業ともに悪化が見込まれている。

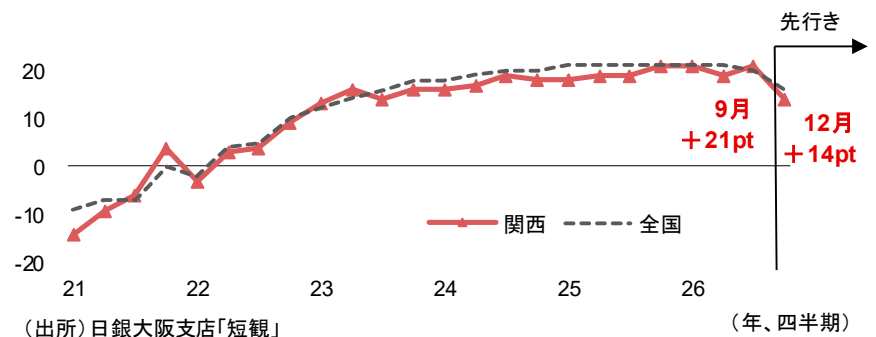
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業

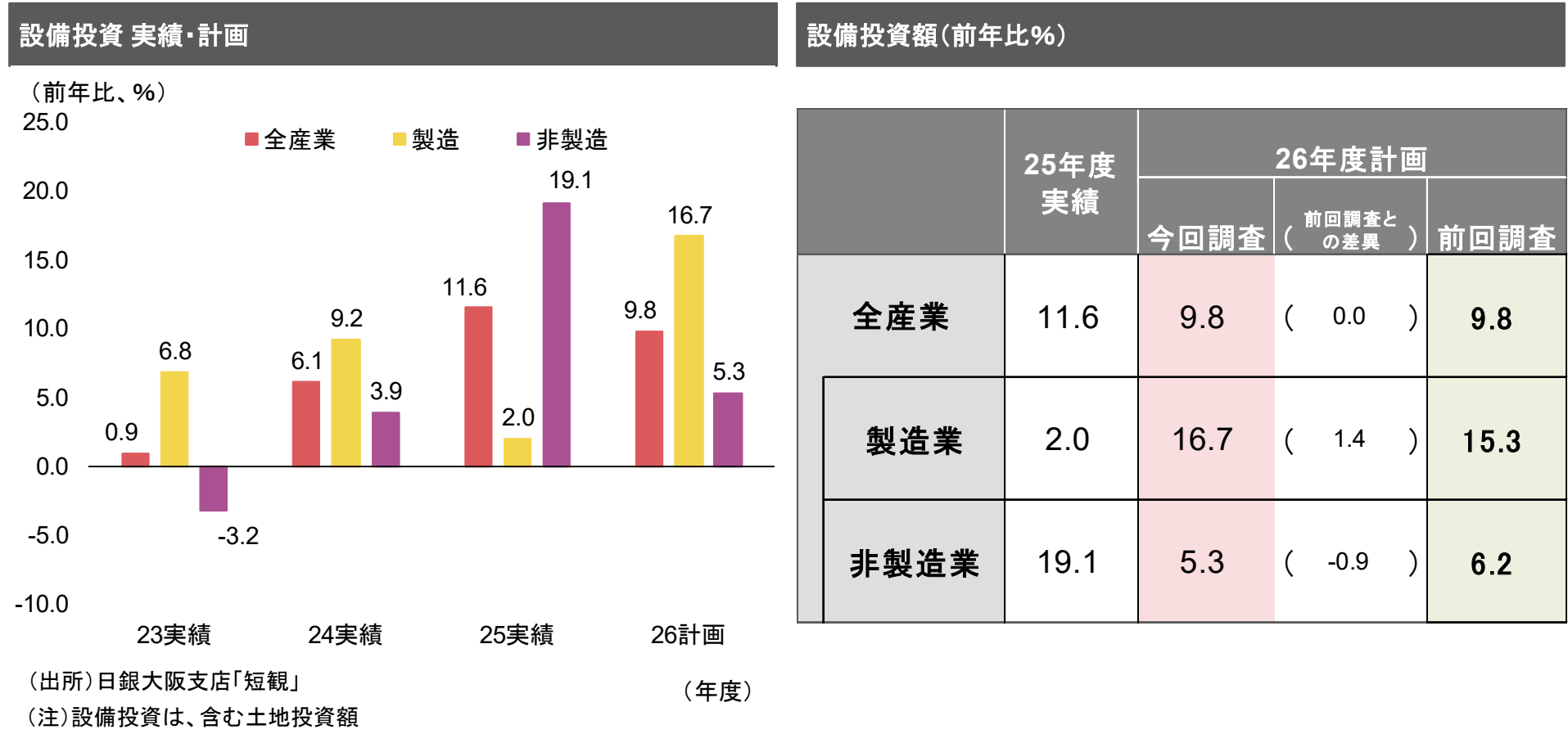


同 非製造業



設備投資(日銀短観)

日銀短観9月調査によると、26年度の設備投資は全産業で前年比+9.8%と前回6月調査と同水準が見込まれている。業種別では、化学、輸送用機械、電気機械、建設、小売、対事業所サービスなどが前年比大幅増の計画となっている。



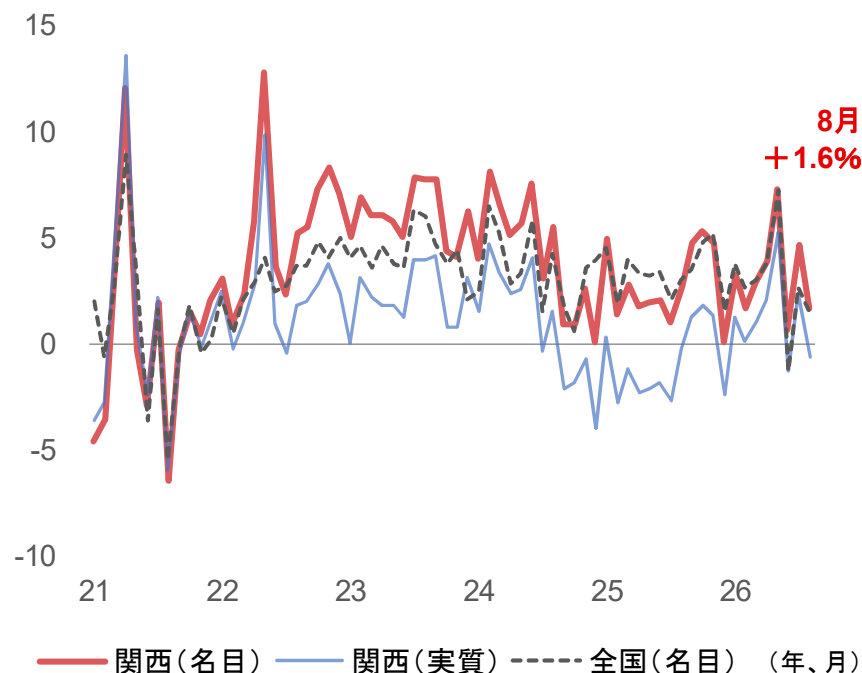
個人消費(小売売上、自動車販売)

8月の小売販売額(名目)は、前年比+1.6%の増加となった。実質値は前年比-0.6%と2ヵ月ぶりにマイナスとなった。

8月の新車販売は、前年比-1.2%と5ヵ月ぶりに減少。普通車、小型車は増加したが、軽自動車が増加した。

小売販売額(6業態計)

(前年比、%)

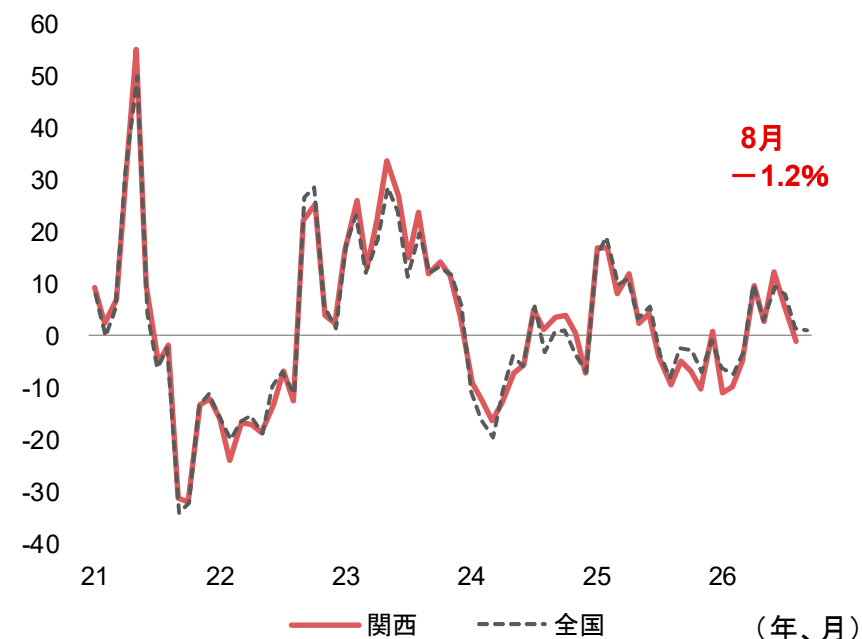


(出所)経済産業省「商業動態統計」からMURC試算

(注)百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計
「持家の帰属家賃を除く総合(関西)」で実質化

新車販売台数(含む軽)

(前年比%)

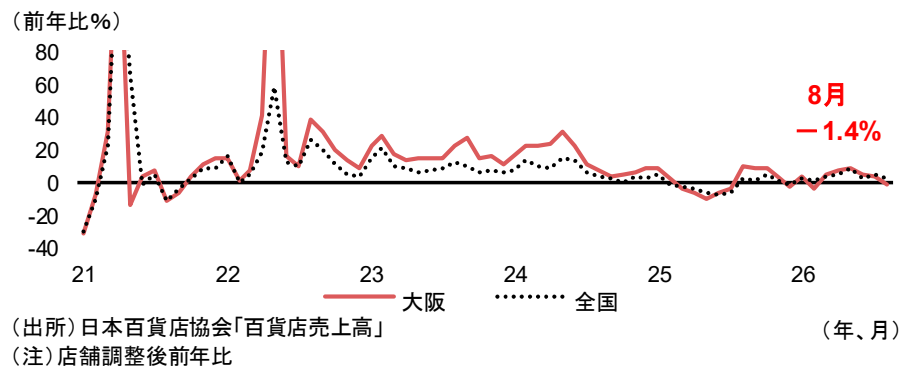


(出所)日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」
全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

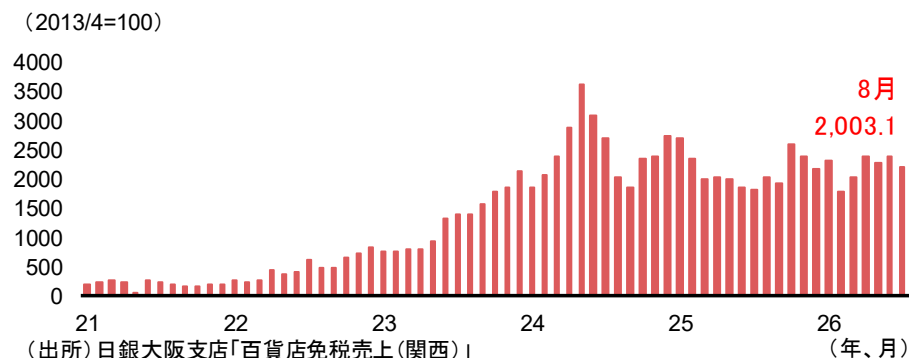
個人消費(業態別)

8月の百貨店売上(大阪)は、前年比-1.4%と6カ月ぶりにマイナスとなった。前年の大阪・関西万博関連需要の反動に加え、大丸梅田店の大規模改装に伴う売場縮小が押し下げ要因となった。京阪神百貨店免税売上指数は前年比-0.3%の2,003.1と6カ月ぶりにマイナスとなった。

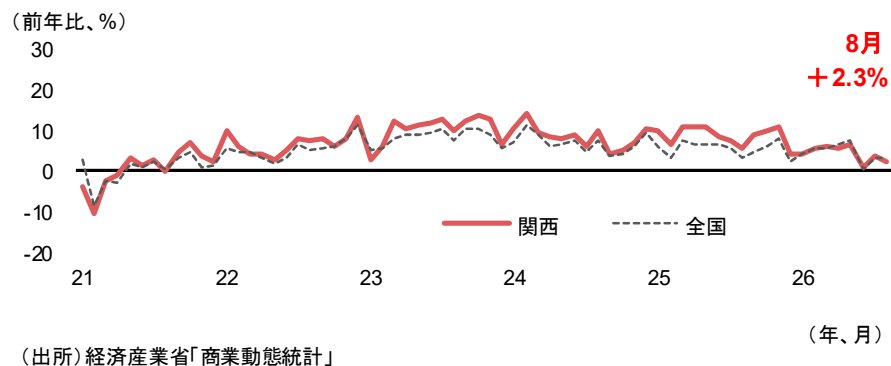
百貨店売上高



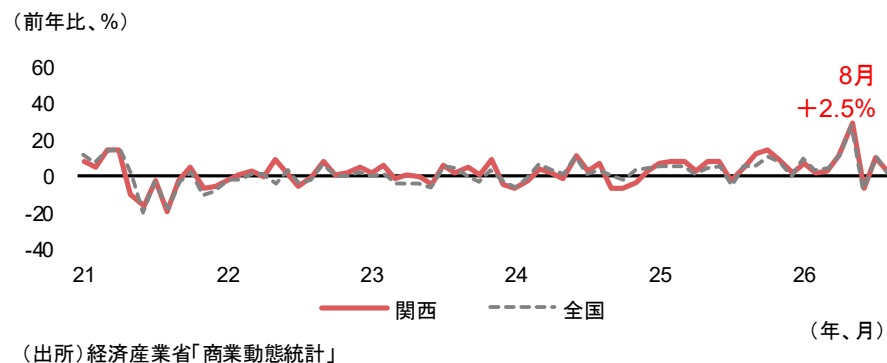
京阪神百貨店免税売上高



ドラッグストア販売額



家電大型販売店販売額

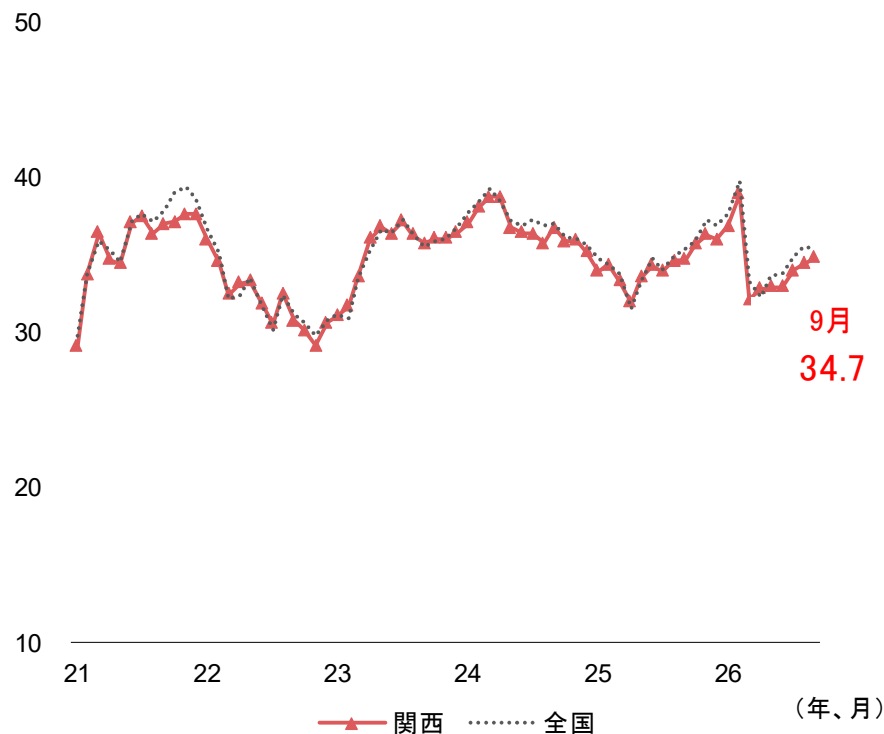


マインド・景況感

9月の消費者態度指数(季節調整値)は34.7と3ヵ月連続で上昇した。

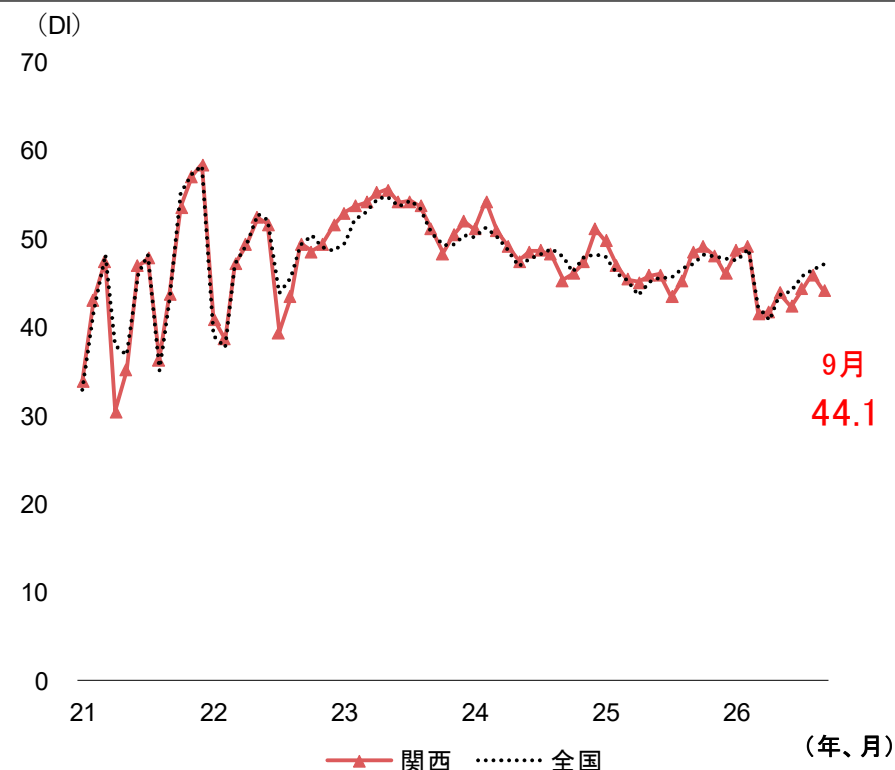
9月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI、季節調整値)は前月差1.9pt低下の44.1となり、横ばいを示す50を21ヵ月連続で下回った。秋物需要や連休・インバウンドで人出が増加したものの、物価高による消費マインドの低下から景況感が悪化した。

消費者態度指数



(注)関西の季節調整値はMURC試算
(出所)内閣府「消費動向調査」

景気ウォッチャー調査(現状判断)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

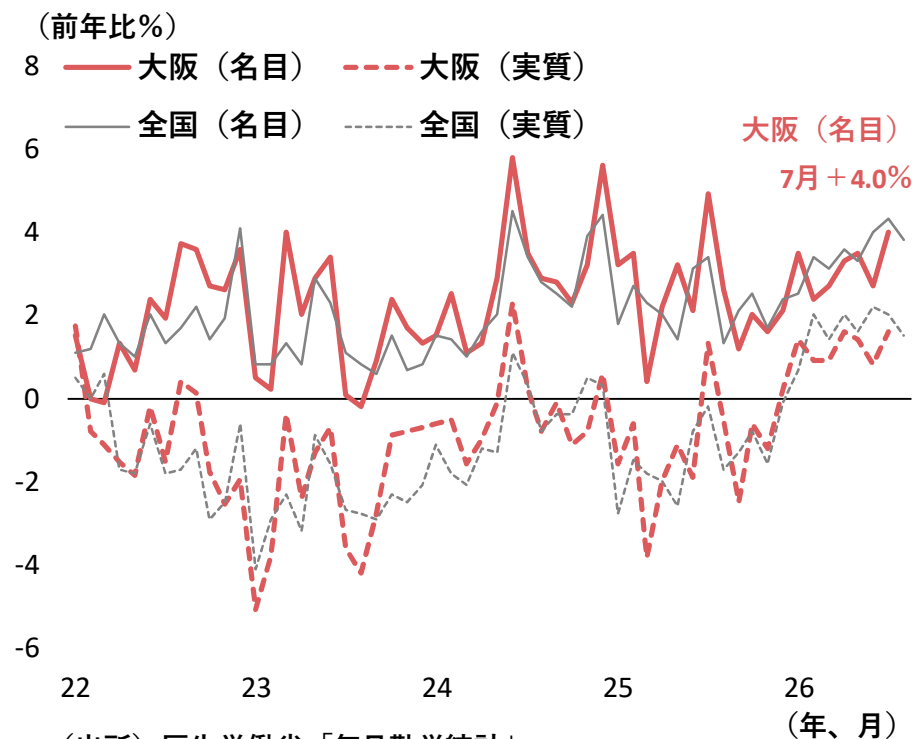
賃金・雇用

7月の大阪の賃金指数は、名目で前年比+4.0%と前年比プラスが続いている。実質でも同+1.6%と8カ月連続でプラスとなった。

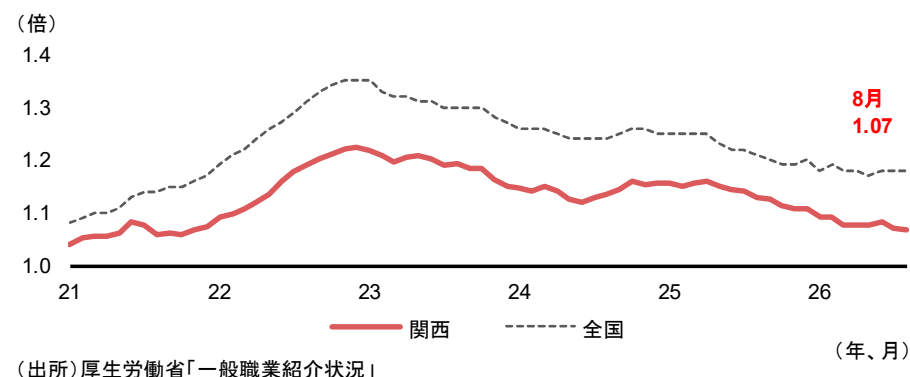
8月の関西の有効求人倍率は1.07倍と前月とほぼ同水準。求人倍率は全国と比べ低めで推移している。

26年4-6月期の失業率は2.9%と前期から0.1%pt上昇、就業者数は1,102万人と前期から増加した。

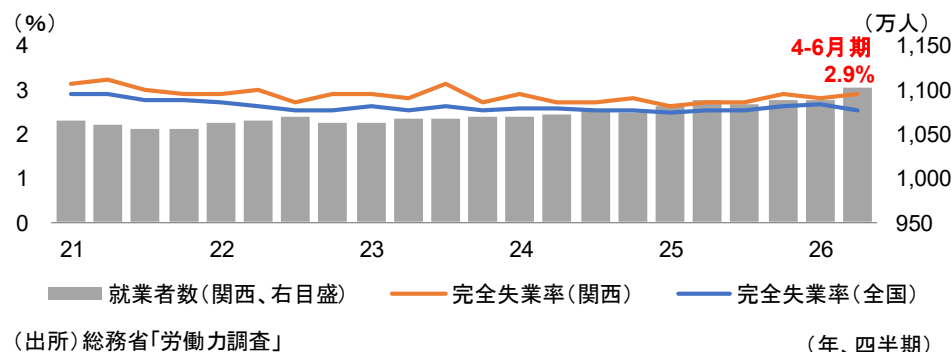
名目賃金指数



有効求人倍率(季節調整値)



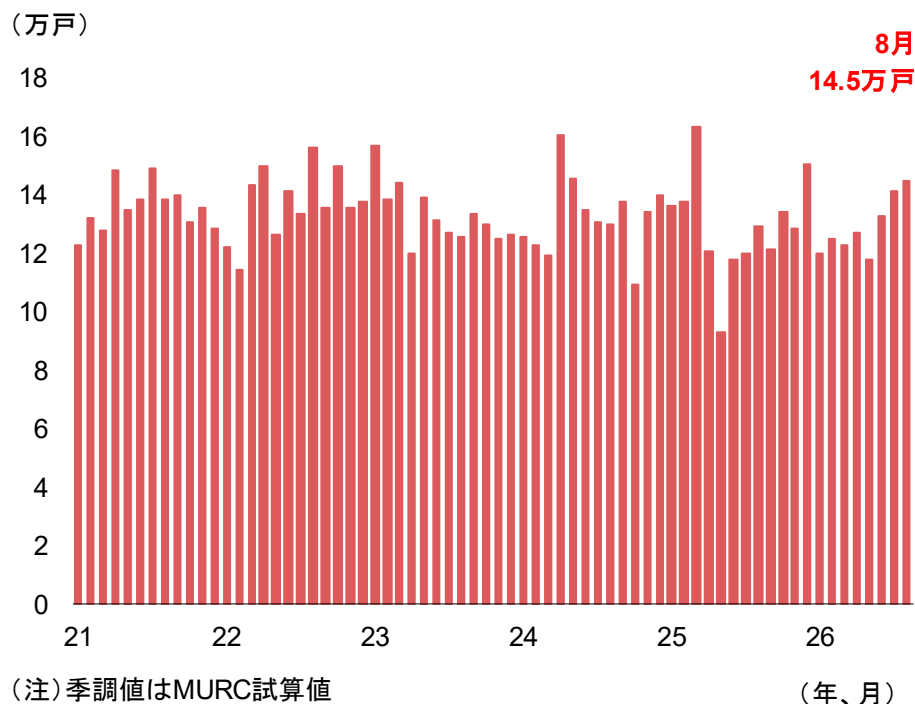
失業率と就業者数(季節調整値)



住宅投資

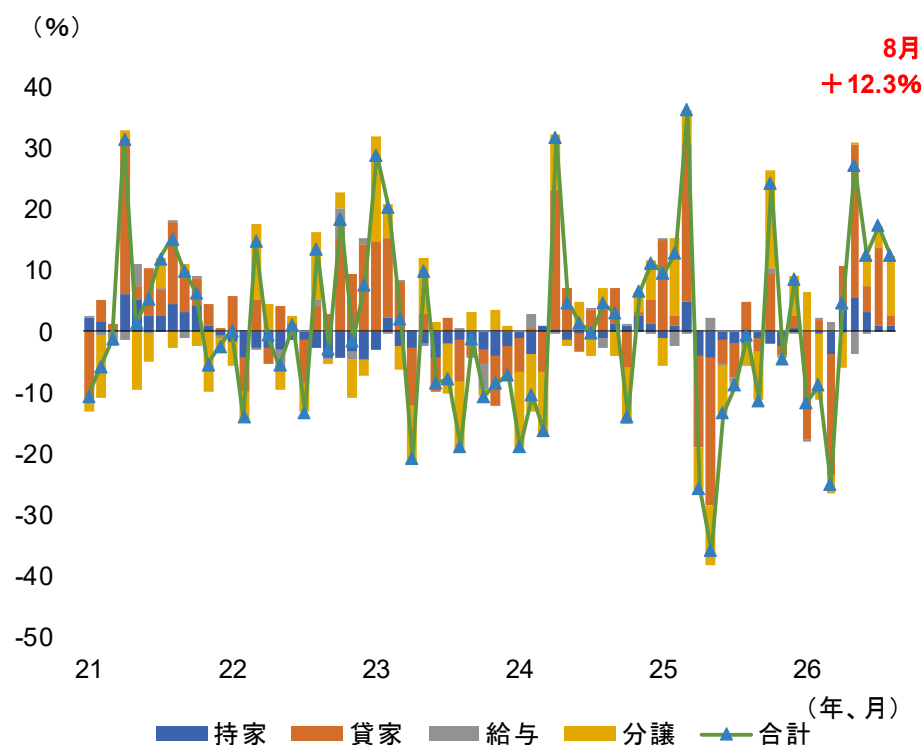
8月の住宅着工は、季調・年率14.5万戸と3ヵ月連続で増加し、持ち直しの動きがみられる。前年比では+12.3%と大幅に増加。分譲マンション、貸家が増加に寄与した。先行きは、所得環境の改善が下支え要因となる一方、資材価格や人手不足などによる下押し要因もあって、横ばい圏での推移が見込まれる。

新設住宅着工戸数(季調済年率換算)



(注) 季調値はMURC試算値
(出所) 国土交通省「建築着工統計」

新設住宅着工戸数(前年比)

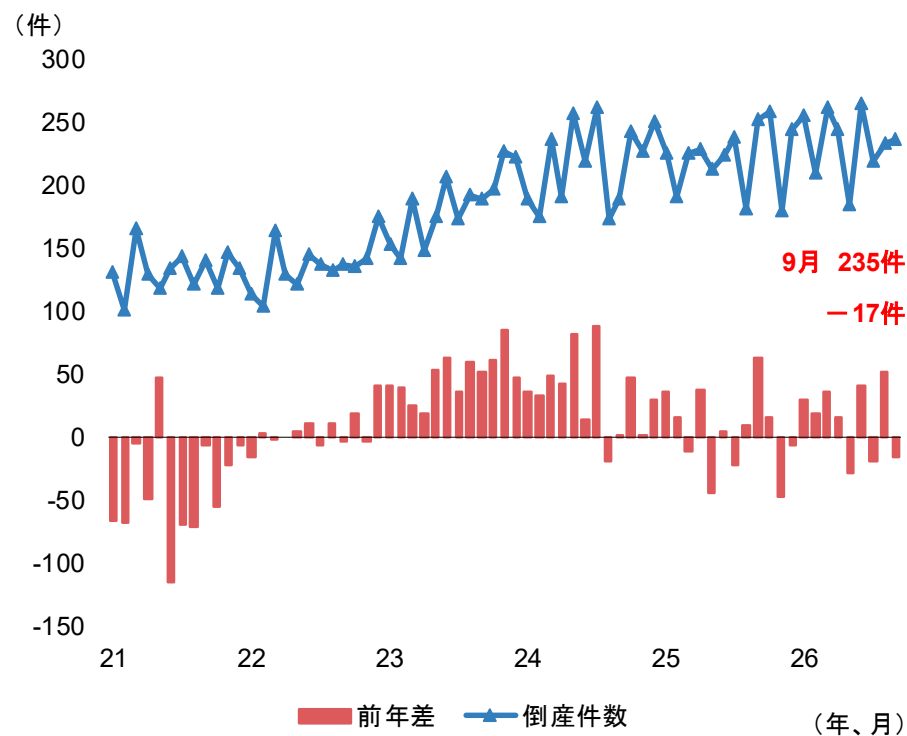


(出所) 国土交通省「建築着工統計」

倒産

9月の倒産件数は235件と前年から17件減少。均してみると、おおむね横ばい圏で推移している。

倒産件数

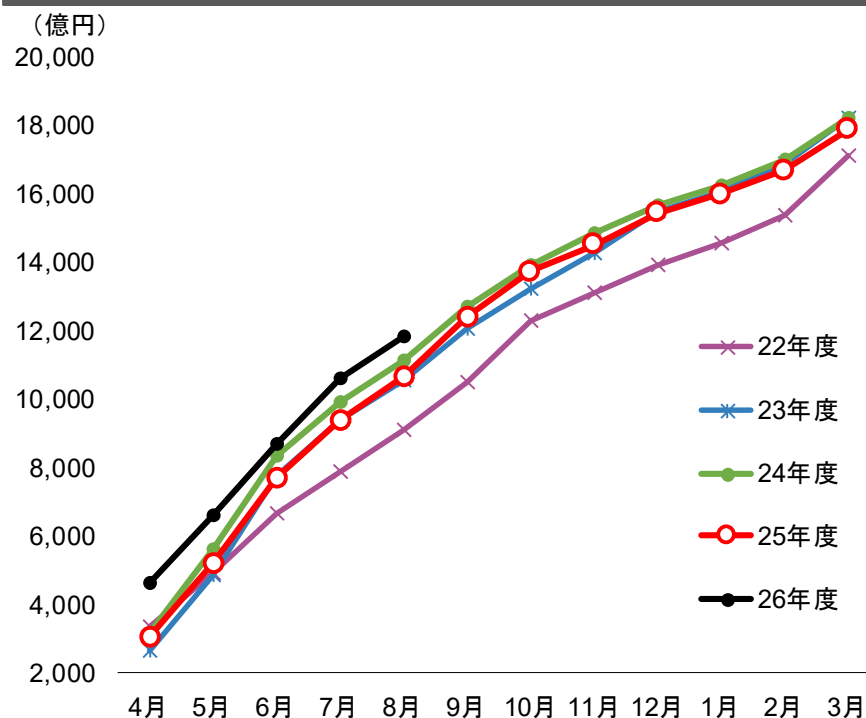


(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

8月の公共工事請負金額(年度累計)は、前年比+11.0%の1兆1,809億円。例年より高めの水準となっている。

公共工事請負金額(年度累計)



(出所) 東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL: 03-6733-1626 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー